

1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。
2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

() 月 日 曜日

九十三歳で再び

神山小 六年 坂内 瞳

「こんにちは。」

しわがれたやさしい声があいさつした。ふり向くとげんかんに小さなおばあちゃんが立っていた。何事かと思った。そしたら、

「今日、予約していた今田です。」
すかさずお母さんが顔を出す。私の家は民宿をやっている。来る人はだいた一人が夕

い。おばあちゃんも同じ一人だ。
おばあちゃん。昔屋久島の山に登ったことがあるそうで、またその感動を味わいたいと思うだ。

夕飯はおばあちゃんといっしょだった。おばあちゃんには聞きたい事がたくさんあって質問攻めにした。

「おばあちゃんは何歳。」

「九十三歳。」
「屋久島の山はどこに登りたいの。」

「えっと。白谷。」

3 詩ほどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましょう。
4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。

(不許複製)



- 1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。
- 2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

（ ）月 日 曜日

「なんで白谷に登りたいの？」
 「とにかく登りたい。どうしても。」
 私はなんでおばあちゃんが白谷に登りたい
 かわからなかった。
 「私も行く。」
 なんだか私も登りたくなって来たから言っ
 た。おばあちゃんは笑顔で
 「ふうこんで。」
 と、言った。いよいよ明日はおばあちゃん
 と白谷に登る。
 いよいよ今日だ。おばあちゃんに、
 「調子はどう？」ときいた。
 するとおばあちゃんは「大丈夫」とばかり
 両手でグーをした。
 白谷の入口に着いた。いよいよ登るんだな
 と思い、キンチョーしていた。
 私とおばあちゃんは山道をどんどん登って
 いく。最初は階段だった。長い階段でつらそ
 うだった。でも大丈夫か、ときくとニコソと
 笑った。少し歌道っぽくなってきた。おばあ

No.

- 3 詩はどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましょう。
- 4 書き終わったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。

(不許複製)



1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。
2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

（ ）月 日 曜日

No.

ちゅんはあいかわらずつらうだが、楽しそ
 うにはな歌していた。
 おばあちゃんはとうとう太鼓岩へ向う道ま
 で来た。ここからはキツイ。おばあちゃんに
 「ここで休んでから帰ろうか。」
 と、言った。たがおばあちゃんは「ここまで来た
 から山頂まで行かないと帰えられない。」と言っ
 ている。きっともじかも痛いだろう。でも
 おばあちゃんの目力に負けた。だからしばらく
 休んでから行こう。と言った。
 おばあちゃんとは太鼓岩まで二時間かかっ
 た。おばあちゃんは大きく息を吸った。そし
 たら急にしくしく泣き出した。感動している
 のだろう。私も、もう泣き止まらなかった。
 なぜだか分からないが。
 私は屋久島に住んでいるからか自然のすば
 らしさが分からなかった。でも山登りは最高
 だ初めての登山が白谷下うれしかった。
 私も歳をとったら屋久島の山に登りたい。

(不許複製)

3 詩はどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましょう。
4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。

